

# 関西女子短期大学

## 評価短期大学の概要

設置者 学校法人 玉手山学園  
理事長 江端 源治  
学 長 志水 彰  
A L O 岩瀬 悉有  
開設年月日 昭和 40 年 4 月 1 日  
所 在 地 大阪府柏原市旭ヶ丘 3 - 11 - 1

## 設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
保育		110
保健		70
歯科衛生		100
	合 計	280

## 専攻科および入学定員

なし

# 機関別評価結果

## 1. 機関別評価結果

関西女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成18年3月23日付で適格と認める。

## 2. 機関別評価結果の事由

関西女子短期大学の設置母体である学校法人玉手山学園は、関西福祉科学大学、関西福祉科学大学大学院、関西医療技術専門学校、関西福祉科学大学高等学校、関西女子短期大学附属幼稚園等を擁する学校法人であり、当該短期大学は、保育科、保健科、歯科衛生学科の3学科5コースを設置している。

平成17年1月20日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

創立者である山田藤一氏は、「感恩」を教育の原点と考え、これを建学の精神とした。この建学の精神は、「入学案内」及び「学生便覧」にも記載される等説明がなされている。教育目的・教育目標については、学科で内容的に異なるところがあるが、いずれも「全人的教育」を教育目標とし、定期的な点検も学科・コース毎に行われている。教育目的や教育目標を共有するための組織として、「短大運営委員会」(隔週開催)が設置・運営されるなど、共通理解を得るための活動も積極的に行われている。

教育内容、教育課程は、教育理念を反映し各学科の教育目的に基づいて体系的に編成され、また、履修コースにより各種の免許や資格取得への配慮がなされており、学生の多様なニーズに応え、学生の主体的学習等にも配慮されたものになっている。単位の認定方法や取得状況などから、担当教員の授業への熱意ある取り組みが学生の目的意識を持続・再認識させている状況がうかがわれ、学生のほとんどが所期の資格・免許を取得して卒業し、専門職への就職率も各学科とも相当に高いという結果にも示されている。

学生支援については、学習・学生生活・進路支援を教職員一体となり学生支援センターを組織的に運営し機能している。それぞれの学科・コースの特徴や必要性に対応した就職支援対策を講ずるとともに、指導教員も学生支援センターと連携し学生の就職指導を行っ

ている。

研究実績を短期大学全体として見た場合、相当に努力を傾けて研究活動が展開されていることがうかがわれる。また、教員の担当授業科目に関する研究及び学科ごとのグループ研究等は積極的に行なわれており、授業や実習における工夫に役立っている。

社会的活動としては、全学科とも医療や福祉社会に貢献する人材養成を目的としており、その学習内容上必要な実習を主として地域の施設で実施するなど、地域と共生する姿勢を社会活動の方針としている。また、学内に地域交流センターを発足させており、公開講座を市民フォーラム形式で実施している。

学校法人の管理運営は、寄附行為等に基づき、理事長のリーダーシップが適切に発揮される体制となっている。理事会及び評議員会は規程に基づきそれぞれ適切に運営され、監事も規程に基づき適切に業務を執行している。また、短期大学の運営体制も、学長が適切にリーダーシップを発揮できる体制である。教授会、委員会等も適時開催されており、運営体制は確立している。事務組織は、併設大学と一元化した組織で運営されており、概ね適切な業務を行なっている。

毎年度の事業計画及び予算は、適切な手続きのもとに決定され、適切でかつ円滑に処理されている。財務情報の公開については、法人本部の窓口での閲覧を行なうほか、学園の広報誌に掲載しており、財務運営は適切に行なわれている。学校法人及び短期大学の財務状況は、健全に推移している。また、短期大学の教育研究費比率は、適当であり、教育研究用の施設設備費及び図書費等も適切に配分されている。短期大学に必要な施設設備を整備し、それぞれの規程を整備して適切に管理されている。

自己点検・評価については、「3年に1度」実施すると規定し、組織面では「自己点検評価委員会」の下に「実行委員会」、「実施委員会」、「公刊委員会」を設け、自己点検・評価活動を行うための規程も、整備されている。

### 3. 優れている点及び向上・充実のための課題

#### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の内容

- ・ 社会の変化に対応して、保健科・歯科衛生士コースを3年制に改組する等、改革・改善への取り組みがなされている。
- ・ 保育科と保健科においては、いくつかの履修コースを設定し、各種の免許や資格取得への配慮がなされるとともに、卒業要件に対する必修を少なくする工夫や系列任意単位の設定により、学生の選択の自由が保障されている。
- ・ 講義要目は、学生便覧と一体型で、コンパクトサイズで持ち運びやすく、活用しやすく工夫されている。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 短期大学専用の図書館を備え、図書購入選定システムに基づき、講義要目記載の参考書を購入する等学生が利用する図書も充実している。

評価領域 学生支援

- ・ 学習支援・学生生活支援・進路支援は「学生支援センター」、「学生支援委員会」の組織とゼミ教員によって全学一体となった体制が整っている。

評価領域 研究

- ・ 学内構成員を対象とした「短大セミナー」を毎年 3、4 回開催していることは、単に研究活動の公開や研究発表の機会を確保すること等の次元を越えて、短期大学全体の教育と研究のピア・レビューという性格を持つものであり、多様な学問領域の研究内容と活動状況を知り学びあう場として有効であるだけでなく、短期大学の教員集団としての一体性を形成するのに役立っている。

評価領域 社会的活動

- ・ 地域と共生する姿勢を活動の方針とし、教育内容と統合した形式で教員と学生が一体となり、継続的に実施している。多胎児子育て支援や保育所での子育て支援、不登校児童生徒支援、口腔保健指導を通じての保健支援、高齢者施設における介護支援等学科・コースの教育内容に関連する多くの支援プログラムを展開している。

## (2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

- ・ 学生による授業評価結果を授業改善に活用するシステムの構築に努力されたい。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 学習自習室として、学生ホールを充てているが、学生の空き時間の学習活動を確保する上でも、学習環境の整った学生自習室の整備が望ましい。

評価領域 学生支援

- ・ スクールバスの利用については、利用者アンケート結果を踏まえて、さらに利便性を高める改善が望まれる。

評価領域 研究

- ・ 研究実績に教員間の偏りがあるので、改善が求められる。

評価領域 財務

- ・ 保育科、保健科における定員超過を是正されたい。

**(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

なし